

- ・対象地域：寿都町
- ・地域人口：3,136人(平成22年)・4,114人(平成12年)
- ・漁港：寿都漁港(第3種)
有戸、美谷、横澗、政泊、樽岸、鮫泊漁港(第1種)
- ・漁業就業者：151人(平成20年)・165人(平成12年)

寿都地域マリンビジョン

～ “寿都・後志ツーリズム交流文化圏の形成” ～
(平成18年3月策定・平成26年7月改訂)

■拠点漁港のタイプ

●多機能地域振興拠点漁港

- 衛生管理流通拠点漁港
- 増養殖振興支援拠点漁港
- 都市漁村交流拠点漁港
- 防災拠点漁港

拠点漁港



第3種 寿都漁港



ホッケの水揚

地域の資源等

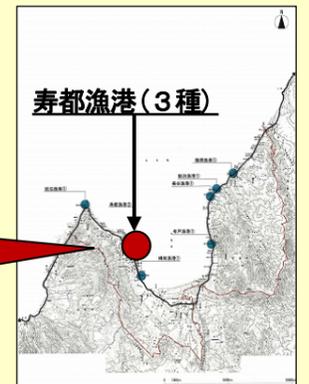


風のまち寿都(風力発電施設)



鯉御殿

【位置図】



現状と課題

現状

- 過疎高齢化の進行、高齢者単身世帯の増加
- 加工業を含めた水産業特化型産業構造
- 水産資源減少、漁獲量・単価の低迷と就業者減少
- 道の駅・漁業体験等により交流型観光の萌芽

課題

- 山・森・里・川・海一体的環境保全
- 寿都漁獲物の単価の維持・向上
- 産地衛生管理の推進・消費者の信頼獲得
- 足腰の強い沿岸漁業経営の形成
- 高齢漁業者に安全・快適な就労環境創出
- 水産資源の減少に対する取組み
- 水産物の安定供給体制の確立
- 多機能地域振興型漁港整備・ネットワーク
- 自主自立の暮らしと生活環境整備の推進
- 地震津波等への対応を含む地域防災対策

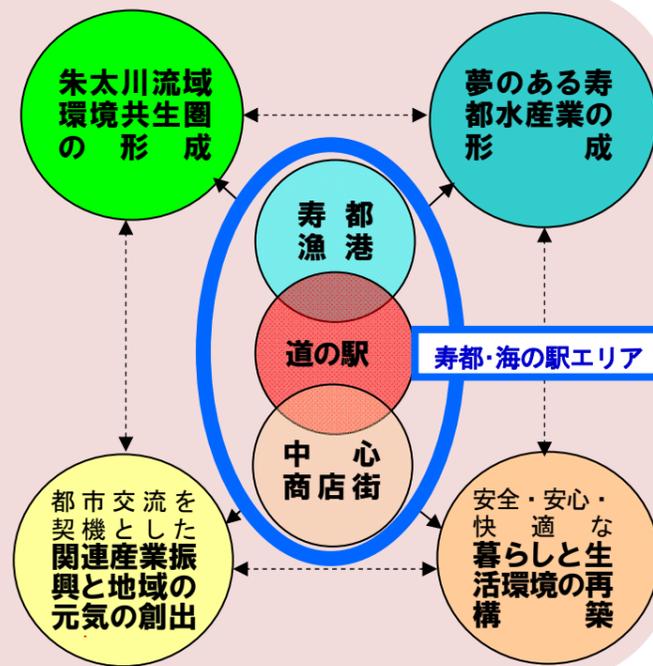
地域の目指す姿

■ビジョンの特徴

コンパクトにまとまった特徴的な自然と水産業を核とした地域産業、自然と共生した生活・文化を活かし、①既存資源の付加価値化と活用、②既存地域おこし組織機能強化と実践、③既存の交流実績活用、④黒松内町や酪農等の他産業との広域・異業種連携を通じて、「寿都・後志ツーリズム交流文化圏」の形成をめざす。交流人口増を契機に「水産業他既存産業との連携」、「新たな交流関連産業創出」など経済波及とともに、地域の“元気”を創出する。

道の駅・寿都漁港・中心市街地商店街が一体となった集客・交流拠点の形成

- 密度の濃い交流人口の増加
現状18万人→目標23万人(5万人の増加)
- ①UIターン定住人口・季節定住人口の増加
 - ②域外応援団の創出



地域マリンビジョン協議会

《協議会メンバー》

- ・漁業協同組合
- ・商工会
- ・観光協会
- ・水産加工業協同組合
- ・建設協会
- ・プレジャーボート協議会
- ・関係民間団体
- ・関係大学
- ・行政関係者(事務局・オブザーバー)

地域資源(特徴)

- 山・川・里・海がコンパクトにまとまった環境
- 水産業に関わる生産・漁獲物・歴史文化資源
- 様々なかたちの交流と産業横断的なまちづくりの動き

【主な地域資源】

- ・朱太川から続く寿都湾
- ・漁業と多様な水産物・水産加工業
- ・風(風車)、弁慶岬
- ・人文資源(カクジュウ佐藤家、鯉御殿)
- ・関係大学との交流実績

等

漁港の将来像

多機能地域振興拠点漁港の形成

- ①衛生管理流通拠点機能(屋根付岸壁)
- ②増養殖振興支援拠点機能(蓄養施設)
- ③都市漁村交流支援拠点機能(水産物普及・体験交流施設)
- ④防災減災支援拠点機能(耐震岸壁・背後施設整備)
- ⑤寿都中心市街地の優れたウォーターフロント環境マリンビジョン構想を支援する漁港整備を推進

ビジョン実現のための主な取組み

- 朱太川水系環境保全活動の推進
- 衛生管理体制の確立・ブランド化の推進による地域生産漁獲物の単価向上
- 沿岸漁家経営の体質強化による所得確保と将来の寿都漁業の担い手の確保
- 種苗放流や磯焼け対策による資源管理、増養殖の取組み
- 近隣町村・関係大学等との多様なツーリズム観光の振興
- 漁港における避難行動のルール化等の総合防災対策の推進
- 海・山・川一体のエコツーリズム活動、地産地消体制の確立、交流拠点強化